

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として「自分らしくゆっくりと、ゆとりのある暮らし」を掲げており、玄関を入り右側に掲示されている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自立支援の面で、職員間で話し合い、各々の利用者が出来ることを、またその人らしくとはどういうことかを考えながら取り組むようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	一軒の家として、町内行事にもできるところから参加をはじめた。	○ 市内のボランティアによる話し相手としての訪問(小学生、サークルの人々)近隣住民、家族との交流会(納涼祭)などにより、理解してもらえるよう努めたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩にでかけるようにし、挨拶をすることから付きあいはじめた。	○ わずかずつでも近隣住民との接触の幅を広げる工夫を組み込んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年から地域活動(河川掃除など)に参加をはじめた。地域の小学校の招待集会や運動会に参加している。	○ 今年には地域の運動会や育成会の夏祭りに参加する予定です。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ取り組んでいない事なので、今後職員と話し合い、検討していく課題です。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることにより、日々自分達の実施していることを振り返る機会になると考えている。昨年は改善課題について話し合う機会がなかったので、評価を活かせなかった。	○	今年は評価結果を運営推進会議で報告してご家族や地域の方にも協力していただけるよう話し合う予定です。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画を作成している。運営推進会議での意見を取り入れ、改善したこともある。	○	昨年は予定通り実施できなかったもので、定期的に取り組んでいきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関してなど、わからないことに対して相談している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットなどをファイルし、職員間で知識の共有を図っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待問題への取り組みは自分たちの業務であるとの認識を深め、虐待についての知識を深め、虐待についての知識を学び、日々の職務に生かしていきたいと思うと共に、利用者のサインを見落とさぬよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項の説明を行なっている。いつでも不安・疑問な点があれば、声をかけて説明するよう話している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員各々が1対1の場において（例ー散歩・ドライブ・入浴時・各居室）誠意をもって集中して傾聴するよう努めている。意見に対し全員で吟味し対処するよう努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会にみえた時に家族に話をしたり、毎月利用者の様子を手紙に書き、金銭出納状況などを個別に郵送している。また健康状態の変化時には適宜電話連絡をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>アンケート用紙を玄関入り口に置いて、自由に記入することができる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>連絡ノートを通して、意見を記入してもらっている。また、直接職員みんなの意見をきくようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や外出にあわせて、休憩時間・出勤時間の変更など柔軟に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者には離職・異動に対し「幸せ」の為と理解を促し、後任の職員に早めに馴染んでもらえるよう努力してもらおうと共に指導に努めて、職員間で協力し合っている。</p>	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>同法人内で行なっている勉強会に参加するようにしている。又、1回/月の他の部署との検討会の資料をファイルして、各自勉強できるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームの管理者と連絡を取り、相談している。</p>	<p>○ 管理者同士は連絡をとることはあるが、職員同士の交流までにはしていないので、お互いに訪問したりできるようにしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の親睦を計るために食事会を催している。また、なごみの部屋や相談室を職員の休憩時間は休憩場所として活用している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>仕事に自信をもち、働けるように言葉かけをするようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接前に得られるいくつかの情報から利用者の直面している困難を知り、生活史から予測される心理的抵抗を理解し、共感的姿勢が取れるよう努め人間的温かさをもって傾聴するよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が今一番困っている事を手がかりに、具体的な援助内容を説明するなどゆっくりと時間をとった面接をし、十分な心理的サポートを提供するよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が表明した意見や感情に添う支援を見極め他のサービスの情報提供もするよう努めて、柔軟な対応を心がけている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、職員が利用者に会いに行ったり、グループホームに訪問していただいたりしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が持っている知識などを日々の生活の中で学ばせていただいている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の方に様子を話したり、入所前の自宅での様子をきいたりして利用者の情報交換をしている。	○	昨年一度、家族と共に七夕祭りを実施した。年に1～2度は家族も参加できる行事を考えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族へ面会や外出の声かけをしている。行事への参加を呼びかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の親戚の方々にも気軽に面会に来られるように声かけをしている。また今まで利用していた他のサービスに遊びに行くこともある。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テレビの前のソファが団欒の場所になっている。座る場所なども利用者同士の関係を考え配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても「あゆ」の近くに来た時は寄っていただくよう声かけをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の生活や行動を読み取り、何をしたいのか声かけをできている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中で、生活歴などをきくようにしている。又、面会時に家族から情報をいただいている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方に波がある。何ができるのか、何がしたいのか会話や行動などから読み取るよう努めている。	現在できることを維持し、楽しく生活していけるよう働きかけている。(散歩・食事の後片付けなど)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に利用者の方に様子を話したり、入所前の自宅での様子をきいたりして利用者の情報交換をしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	面会時に家族と話をしたり、適宜職員と話をし、日々の中で意見をきいて修正するようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は食事量やバイタル、利用者の過ごし方などの記入になっている。気づきや工夫までの記入が充実していないので、今後の課題である。	○	記録についてどう記入していくと情報が共有でき、介護計画に活用していけるか勉強し、改善していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊時のお迎えの時間の変更や食事の変更にも対応している。又、希望時利用者と家族との一緒に食事にも対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入所されている方々は子供が好きな方が多く、小学校との交流を行なっている。今年は地域の運動会に参加しました。	○	利用者が安全でより豊かな暮らしを楽しめるように地域の人たちの力を借りた取り組みができるようにしていきたい。(例えば、消防など)
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前のケアマネジャー等の訪問がある。同法人内のケアマネジャーに相談することもあり、情報をいただいている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員の中に包括支援の方がいらっしゃるのので、その都度相談している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態の変化に伴い、主治医の変更をした(1回/月の往診)。1名の方は家族の協力も得られ、入所前のかかりつけ医に受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診はしているが、家族の理解が充分でなく葛藤している。	○	家族に、ご本人の為に内服など治療が必要なことがあることを少しずつ話して理解を求めている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護職員や同法人の看護職員と相談し、支援していただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中に本人の様子を見に行く。入退院時には、病院関係者と直接会ったり、書面・電話にて情報交換をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての話し合いが充分行なえていないので、今後の課題である。	○	今後は終末期の利用者の方にも支援していきたい気持ちはあるが、家族・職員間・関係機関との話し合いが充分ではない。まず、職員間で話し合いをし相談していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の利用者に関しては家族と相談し、対応できる関係機関に斡旋している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設に移る方は家族の方を含め相談して決めている。移る際にはケア関係者間での情報交換をするとともに、移動後も面会に行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時はノックをしたり、名前を呼ぶ際には「～さん」と親しみをこめて声をかけている。		個人記録ファイルは名前が見えない様にしている。個人記録には他利用者の名前は記入せず、居室のネーミングで記入している。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの利用者について個別的・個性的な目標を立てて、もっとも幸せな状態を作ってもらえるよう、日々の支援に努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の希望にあわせ、散歩や外出をし、職員の休憩時間をずらして支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	多くの方が出張してくれる美容室を利用され、髪染め・パーマ・カットをしている。1名の方が希望の美容室に行っている。洋服等は家族が購入したり、近くの洋品店にてご本人と相談し購入している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	煮物が好きな方が多いので、メニューに取り入れるようにしている。日々変化はあるが、絹さやの筋取り・イモ類の皮むきなどの手伝いやテーブル拭き、後片付けなど一緒にできるように働きかけている。	○	日々、利用者の方の状況は変化しますが、今後も継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在はお酒を飲む、タバコをすわれる方はいらしゃいません。おやつ・飲み物については本人の希望を聞き対応するようにしている。		食費の遣り繰りをし、高値にはなるがうな重・寿司・刺身などの出前や外食などができるようにしている。好みではない物にたいしては代替えも施行している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表により声掛け・誘導をおこなって失禁の回数を減らし、オムツから布パンツに変えている。	○	排便に関して誘導がうまくいってないケースがあるので、今後の課題である。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴していただけるようにしている。 (入浴チェック表により声かけを行っている) 午後入浴が多いが、午前入浴も行っている。入浴を好まない利用者にはタイミングを図り誘導・入浴してもらっている。	○	冬季は就寝前に入浴できるような支援がしていける事が課題である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各々の居室なので、休みたい時に居室に戻り休んでいただいている。就寝・起床時間は一人ひとりにあわせ、対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で、それぞれの方ができること(洗濯たみ・貼り絵・縫い物など)を探して支援をはじめた。	○	利用者の方たちの興味のあること、できることをこれからも一緒に探し、日々の生活の中で楽しみを持てるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の方は小銭は自分で管理しているが、他の方は家族との対応になっている。	○	デパートなどに行き欲しい物を探しレジにて支払い・購入するような支援をしていくのも課題である。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や声かけにて散歩やドライブ（買い物）に行くよう心がけている。	○	本人が戸外に出たがらない方もいらっしゃるの で、どう戸外に誘うかも課題である。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	特別な外出（墓参りや懐かしい場所など）については充分ではないのでこれからの課題である。	○	入所されている方の中には、自宅への外出を希望されている方もいるので、家族とも相談し、対応していきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	持ち運べる電話が設置されている。家族からの電話時には直接本人と話していただくようにしている。年賀状は送付しているが、本人が書くことが難しい方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定していない。居室や「なごみの部屋」などでゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットに柵はなく、状態に応じて布団の対応になっている。同法人で行なう委員会の資料をファイルし、職員が自己学習するようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアは自動ドアになっており、施錠するのは20時から6時までとしている。天気がいい時は換気も兼ねて各居室も網戸にするようにしている。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1日の業務の中で担当性になっており、目配り・気配りに心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は基本的には職員が保管・管理を行なっている。利用者の状況に応じて、利用者が管理しているもの（ハサミ、薬など）もある。		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ADLの変化にあわせ、目配り・気配りをしている。必要時隣で付き添うようにしている。職員が必ず食事をし、内服介助をする人を決めている。薬を介助する時は、名前・日付けを確認している。		
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアル作りをしている。訓練は昨年心肺蘇生法の講習に参加しました。	○	自分たちが慌てず確実かつ適切に行動できるように定期的に勉強していきたい。
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内の方には高齢者が9名住んでることを伝え、協力していただけるよう働きかけている。	○	いつ災害が起こるかかわからないので、具体的な避難策について職員間で検討し定期的に避難訓練を実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>検査結果や日常の状態（歩行など）を家族にお話しし、リスクがある中でもご本人の意向に沿った支援ができるよう、家族と話し合うようにしている。</p>	
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタル測定により身体状況を把握し、トイレの回数や時間の確認の記録をつけている。日常のケアの中で、顔色や様子に注意し、変化を見落とさないようにしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人ファイルに処方薬の説明を入れている。薬変更時には、口頭で伝えるとともに、連絡帳に記入している。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>個人記録（排泄記録）の中から排泄パターンを把握し、便秘予防のために運動や腹部マッサージを行ったり、食物繊維のものを食事のメニューに取り入れている。</p>	○
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、居室やフロアの洗面台に誘導し、うがい等の支援をしている。起床時の歯磨き、就寝時の歯磨き・入れ歯洗浄は本人の状況にあわせ支援している。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量を記録している。食後はお茶を出していますが、おやつの際は利用者の好みをきいて出すようにしている。また、水分摂取量が少ない時はこまめに声かけをしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルがあり、知識を共有している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの励行や食事作りのエプロンの交換・調理用品の漂白・食器乾燥機を使用しています。月～土曜日に翌日使用分の食材を届けてもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の小学校から届いた花（プランター）や利用者と職員が植えた花を玄関に置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔に努めるとともに、庭に咲いている花を切って飾ったりしている。また、正月・雛祭りなど季節行事にあわせ、飾りつけをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ近くのソファ、食事時使用時のテーブル・イス、なごみの部屋などあり、利用者が過ごしたい場所で過ごせるよう声掛け、移動の介助・見守りをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①清潔の保持 ……毎朝下着・パジャマを更衣し、洗濯している。また、夕食後一日着用した衣類は更衣し、洗濯している。1週間に一度必ず、枕カバー、シーツ、タオルケットは交換し洗濯し清潔な寝具にて安眠してもらっている。
- ②こまめな排尿誘導を行い、布パンツ着用を施行している。
- ③朝・昼・夕と手作りの美味しい食事提供 ……半月毎に職員が交替で利用者の嗜好を知り献立を立て食材を発注し調理している。そして、利用者と共に調理する事にも心掛けている。塩分控えめな利用者に対しては別鍋にて調理しそしゃく力低下している利用者には細かく刻むなどの気配りをしている。食事の際には、必ず利用者と共に職員一人が取るようにし目配りしながら会話をして楽しい時を過ごすようにしている。
- ④感染予防の為、チェック表を設け消毒にも心掛けている。